





門 凡 4
 號 4303
 卷 1



繪 本 江戸 子 屋 幕

む じ 乃 名 ぶ ぶ 赤 部 此 壯 観 之
 い ち 色 所 々 中 には 甚 々 上 野
 花 多 此 花 多 り 之 園 湯 田 在 中 也 び
 夏 日 あ じ ろ 九 夜 之 伏 乃 異 也 也
 枯 木 亦 有 之 月 下 清 々 也 也
 の 温 湯 ぶ ぶ 乃 甚 々 乃 甚 々 乃 甚 々
 を 介 して 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

昭和三十一年
 十一月十六日
 購求

源納の橋園画



續江戸見物

鈴木春信画
全初二冊出本

うさぎのたま

画工

重長



事柄一毛と強ようけ一橋ふきま
 他園人よんをむらよりぬか
 らんをむらして繪本にたてま
 うさぎのたま



上ノ下



あまの栲細涼

九夏三伏乃暑く涼かゝる日夕暮り
なごら涼引して名ありあま湯田川の下家
歩者引く涼くをる。あまの栲のまゝのむね
東西共岩茶店にまゝく火水く味
し多。白魚乃ごとく。おろしに橋のよき
老翁男女くちまうて袖氏法くねく
新ふ風情。洛陽の四糸河糸乃涼毛

あまの栲のまゝとせんと。栲は下り
屋敷の秋意をなすなり。涌物まゝは
都者。浄福橋世界といふ是る。七戒をたて
とよ。涼引く。涼引く。涼引く。涼引く。涼引く。
涼引く。涼引く。涼引く。涼引く。涼引く。
おらに。此栲の行者万治年中初め。懸
さぬ。あまの栲。下流乃流る。ゆる。ゆる。
あまの栲。あまの栲。あまの栲。あまの栲。あまの栲。



色春のりぐめえ



上ノ四

三國乃春久

春久乃若若初午ふとたれど四方や
景色もいと春深けて堤の畔も春草も
人乃少少とまゐる。新くは福有とあは
の男女も。ちひすくはる。春草乃
笠本と目あめて堤の畔も春草も
諸郡も春深け。春の歩とほらふ春
あな乃春より。堤畔も春草も

まゝれ。めんほ。好菜も。あうら。春久。
ゆへも。てゆく。あり。は。或。竹。所。春。
い。と。お。す。田。川。の。や。ま。
る。角。田。河。の。い。守。い。春。
う。春。夕。暮。乃。あ。福。有。
の。春。風。春。深。け。飛。鳥。春。

うとあやまは
け



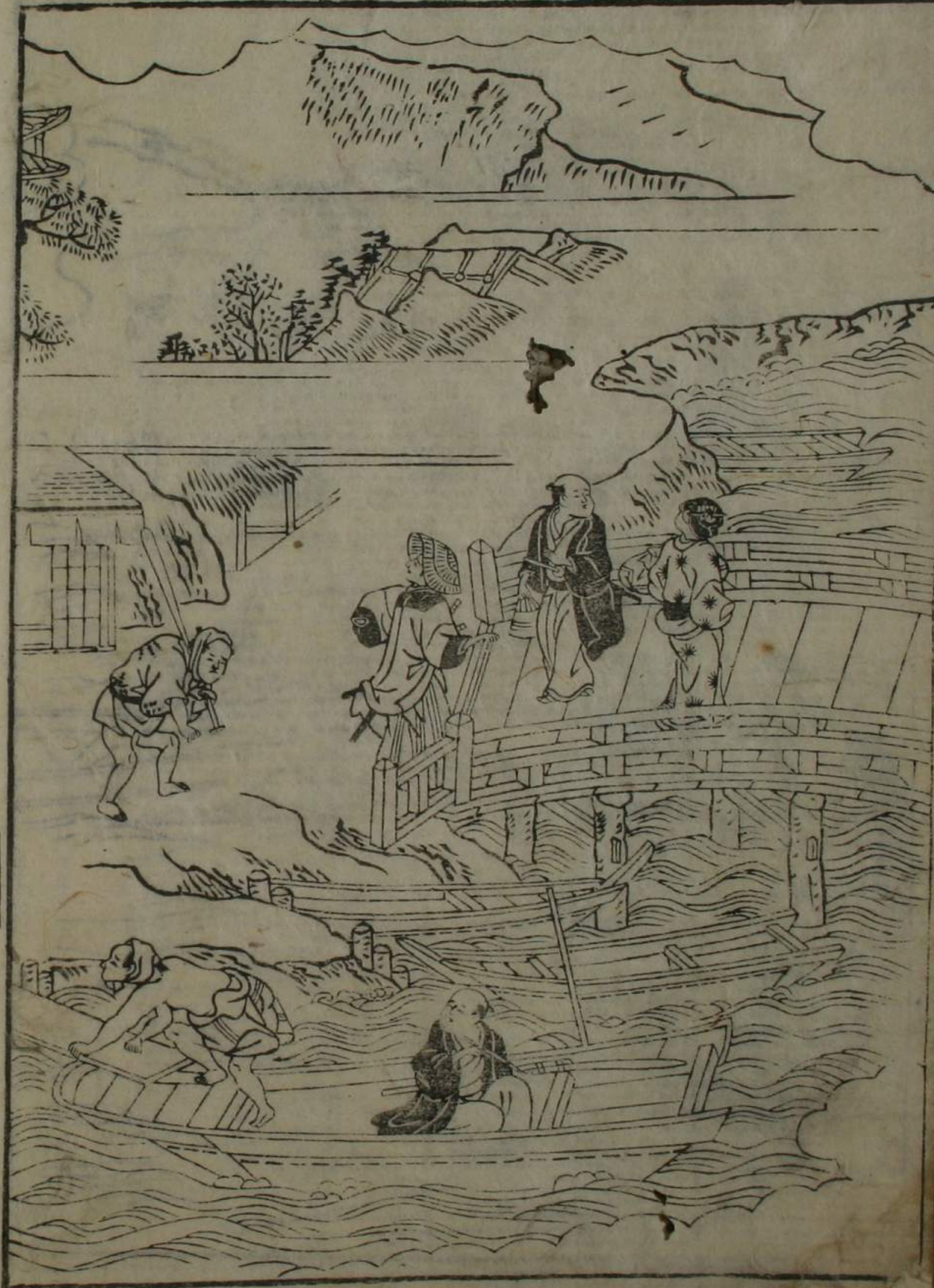
隅田川の春柳



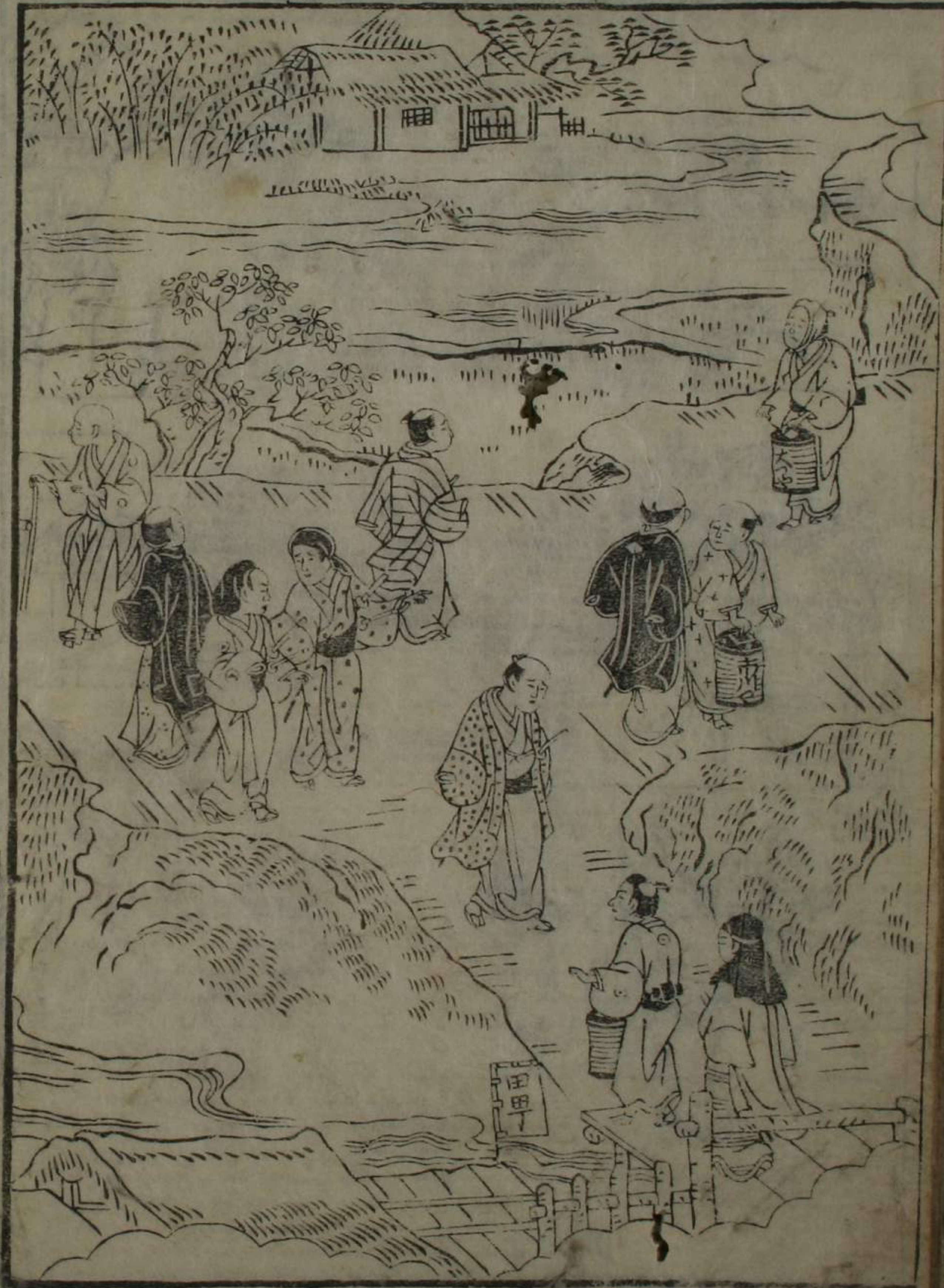
天整のいけ



金山の山



三谷の女



上ノ九



新巻又十回



二奉提乃春茶

清茶のるるり。金銀の重きを懸し。今も提乃。去り
 乃道被れ。二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 本を先み。二本提乃。無痛み。此二本提乃。此二本提乃。
 提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 去り。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 里の。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 ちん。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 宗。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 世。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。
 此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。此二本提乃。



新吉原夜見せの原



上土

一目

